

リンパ節腫脹と病気

頸部リンパ節腫大

① 多発性

小児期で一番頻度が高いリンパ節腫大です。両側頸部に痛みを伴うリンパ節がいくつも腫大します。感染に伴う反応が多く、伝染性単核球症や化膿性扁桃炎が可能性としてあります。

② 孤発性

急速に増大するリンパ節腫大の場合には注意が必要です。発熱を伴う場合と伴わない場合で想定される病気が異なりますが発熱を伴うケースの方が多いかもかもしれません。その場合化膿性リンパ節炎は黄色ブドウ球菌によることがほとんどです。局所の発赤や疼痛が強いのが特徴的。亜急性壊死性リンパ節炎は、白血球の減少を伴うリンパ節腫大が特徴的です。診断のために病理検査が必要になることもあります。他にも、川崎病、猫ひっかき病、悪性リンパ腫などの疾患が鑑別となります。

腋窩リンパ節腫大

乳児ではBCGリンパ節炎が認められることがあります。

鼠径、腹部リンパ節腫大

小児では猫ひっかき病、亜急性壊死性リンパ節炎、悪性リンパ腫などが報告されているため慎重に経過観察します。

当院での対応

まずは血液検査や超音波検査で質的に診断します。必要に応じて病理検査を行います。患者さんの年齢や場所によって難しさが変わりますので、外科の先生や別の病院の先生とも相談して決定していきます。